



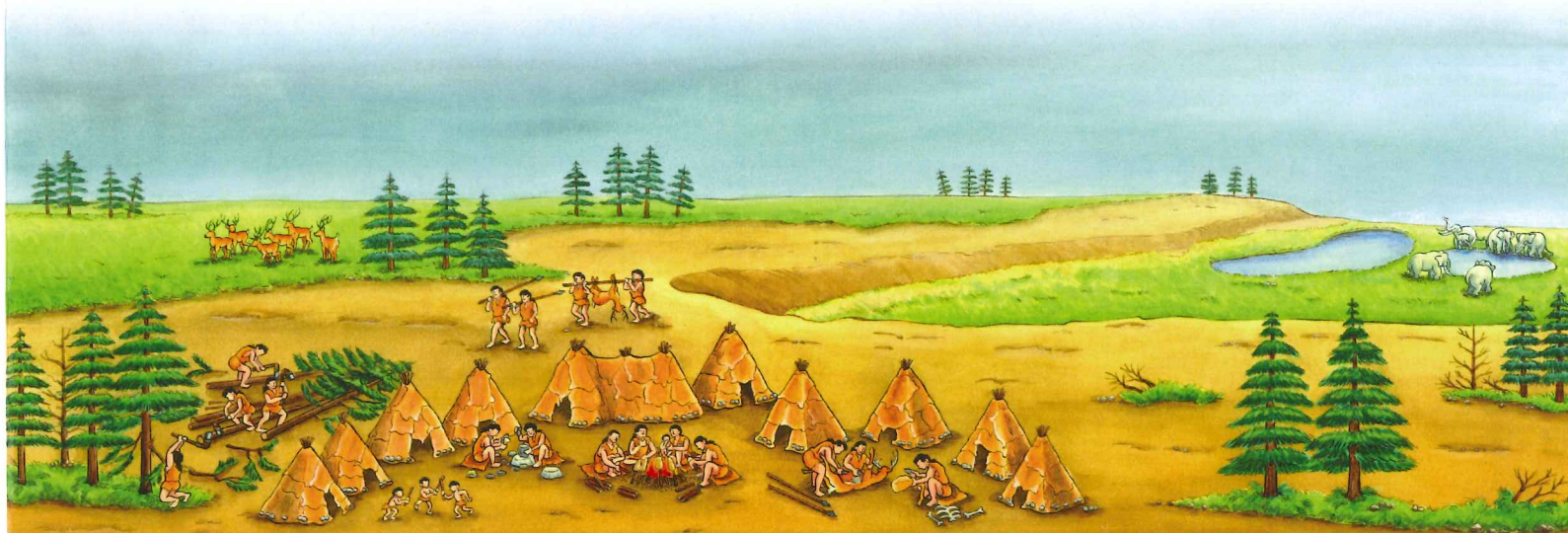
印旛都市文化財センター 2004『印旛の原始・古代-旧石器時代編』、国立科学博物館編 2016『世界遺産ラスコー展』、NHKスペシャル「人類誕生」制作班編 2018『人類誕生』をもとに作成

~日本最大級の環状ブロック群~ 墨古沢遺跡

日本人のふるさと 千葉県印旛郡酒々井町の旧石器時代

墨古沢遺跡と“日本人”の誕生

墨古沢遺跡に旧石器時代のムラがあった時代は、人類にとって激動の時代でした。気候は寒冷化しながら大きく変動し、海拔は現在よりも80mほど低く、本州・四国・九州は陸でつながり一つの島になっており、北海道も大陸と陸続きになっていました。一方、本州が大陸と陸続きになることはありませんでした。そして、この時代は私たちの祖先ホモ・サピエンスが海を越え日本列島に到来・定着した“日本人”誕生の時代です。ホモ・サピエンスは30万年~20万年前にアフリカで誕生し、8万年~5万年前にアフリカから世界中に拡散して行きます。6万5000年前にオーストラリアへ、4万5000年前にヨーロッパに、日本列島には3万8000年前に朝鮮半島から海を越え到来しました。(なお、ホモ・サピエンスの拡散については今日も精力的な研究が続けられており、これらの年代についても今後の研究成果により大きく変わることが予測されます。)



◆お問合わせ先
酒々井町教育委員会 生涯学習課
〒285-0922 千葉県印旛郡酒々井町中央台4-10-1
TEL.043-496-5334 (直)

◆発行/酒々井町 2018.3 発行 2019.3 改訂
<http://www.town.shisui.chiba.jp/>

※もっと詳しく知りたい方は
ホームページで **墨古沢** **検索**



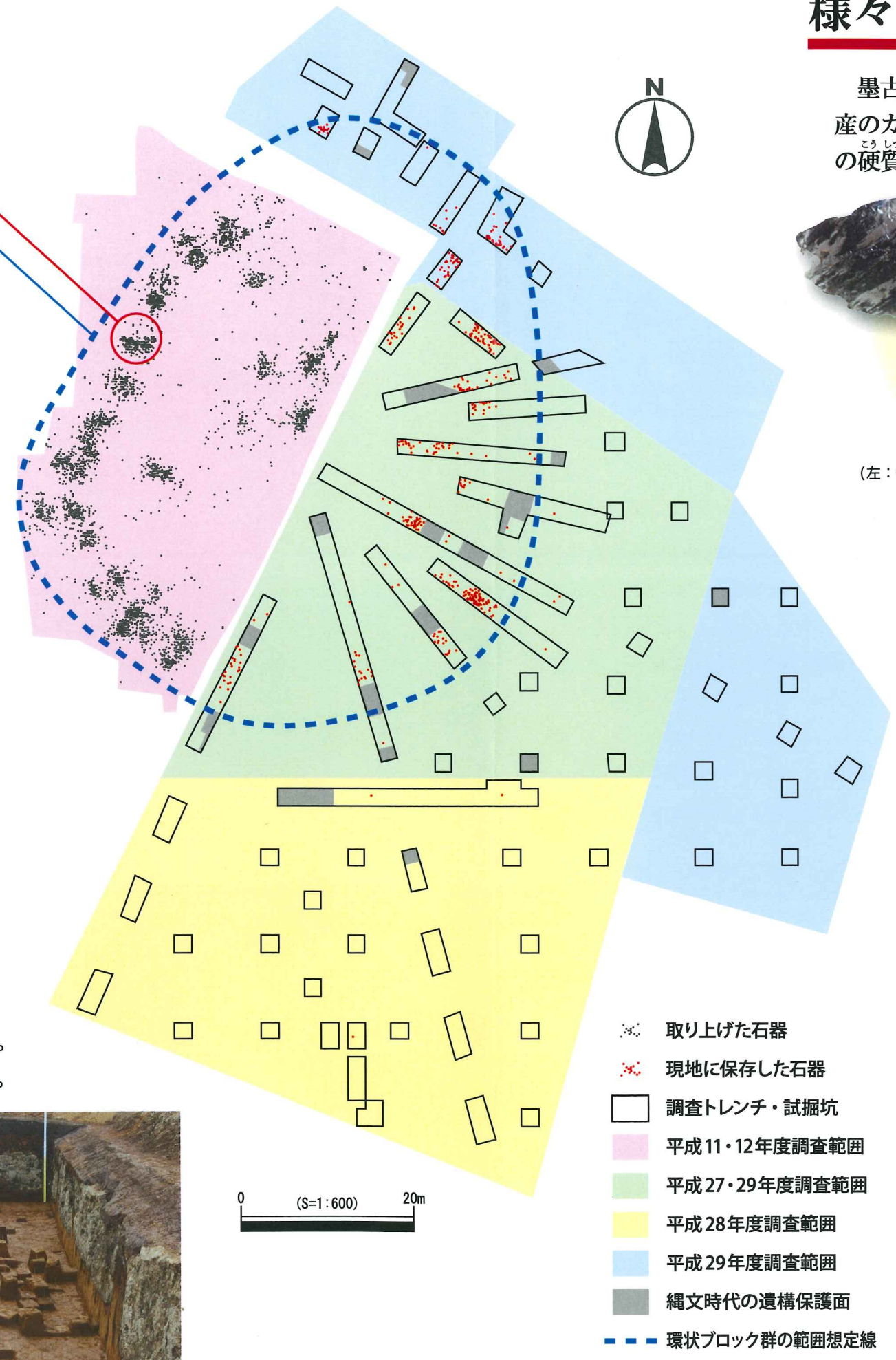
墨古沢遺跡とは

墨古沢遺跡は今から3万4000年前の後期旧石器時代前半期に属する遺跡です。この遺跡は、「石器ブロック」と呼ばれる石器の分布が集中する場所が、円環状に配置された「環状ブロック群」と呼ばれるもので、円環部の大きさが南北70m、東西60m、4386点の石器を発見し、未発掘の石器を含めた総数は1万点に迫ると予測される日本最大級の規模を誇ります。図の灰色の丸で示した石器は発掘によりすべて取り上げ、現地に残っていませんが、北側および東側で見つかった赤丸で示した石器はすべて現地に発見時のまま残されており、遺跡の6割強が保存されています。



石器ブロック

石器ブロックは旧石器時代の人々の生活の痕跡です。墨古沢遺跡では現在のところ61ヶ所が発見されています。



墨古沢遺跡発見石器分布図

様々な地域からもたらされた石材

墨古沢遺跡では広範囲の地域から集まってきた人々により、群馬県産のガラス質黒色安山岩、信州・神津島・栃木県産の黒曜石、東北産の硬質頁岩など様々な地域の石材が持ち込まれています。



石器の接合

墨古沢遺跡では石器の接合が多く見られ、人々が石材を共有し、石器と一緒に作るなど同時期に共同生活していたことを物語ります。



狩人の道具

墨古沢遺跡からは、槍の先に使ったナイフ形石器や台形様石器、毛皮などを加工するための削器や石錐など、遊動生活を営む狩人の道具が発掘されました。

